

# 教育総研ニュース

発行：一般財団法人 教育文化総合研究所

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館内

TEL:03-3230-0564 FAX: 03-3222-5416 <http://www.k-soken.gr.jp>

No.59  
2024.3.15 発行

## 困難な時代の「教職の危機」にどう応答するか？

—若者たちの声をふまえて—

### 人間の無力さの中で…

例年になく暖かく穏やかな元日に、最大震度7という想像を絶する激しい揺れが能登半島を襲いました。海岸は瞬時に4メートルも隆起したというのですから、たとえ頑丈な民家であってもひとたまりもありません。5年前に石川高教組とのご縁でお邪魔した羽咋市・志賀町の風景と心優しい教職員のみなさんに思いを寄せつつ、ただただご無事であることを願わずにはいられませんでした。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、一刻も早く安心できる日常が取り戻されますよう願うばかりです。

人間はなぜ自然にこうも痛めつけられなければならないのか？ 私自身も時折自然が牙を剥く農村で子ども時代を過ごしながら、そんなことを考えないではいられませんでした。自然災害が起こるたびに「なぜ？」という言いようもない虚しさと無力感が募り、「どうしてその人が犠牲にならなくてはならないのか？」と不条理さにいら立ちさえ覚えます。しかし、齢を重ねてくるにつれて、もしかしたら自分の問いが転倒してしまっているのではないかと感じるようになりました。「私たちはなぜ生きられているのか？」と考えることを忘れ、まるで自分＝人間が中心で自然が対象であるかのように認識してしまっただけではないか、そして、都市住まいに慣れてしまった自分はある種の傲慢さに取りつかれているのではないかと。自然から都合よく水や空気や生き

### 菊地 栄治（教育総研所長・早稲田大学）

るための資源を収奪していることを忘れてしまっていることにふと気づかされ、慎ましくも自然の中でいっしょに生きていくことの意味を問う地点へと連れ戻されます。

しかし、心を入れ替えようが、自然災害は何食わぬ顔で訪れます。それほどに自然の力に比べれば人間は無力です。要はそれを人災としたり、正しくメッセージを受けとめないで自らの学びとしなかったりすることこそが人間や社会にとっての本当の災いなのかもしれません。加えて、この国は明らかに「縮小期」に入っています。それは、長い時間をかけて襲ってくる「自然災害」のようでもあります。もはやどこかの国を収奪して達成するGDP上昇に躍起になる時代でもありません。世界人口の爆発こそが危機的状況を生み出すとすれば、先進国の人口減少はマクロに見れば自然な成り行きのようにも思えます。逆に、何があろうとも、ギラギラしたまなざしを金と権力に向ける、いわゆる「マッチョ」な人間たちは、静かに反省の矛先を自らに向けることはありません。

たとえば、このたびの発災直後のSNS上で、吉村大阪府知事は「建設業界の人手不足の状況をふまえて、多くの人手を要する大阪・関西万博を中止または延期すべきでは？」という主旨の議論をめぐって、「万博と復興支援が二者択一の関係ではない」と応酬しました。真に公共性のある営みにかかるコストを削って、別の事業で利益を出し（国民負担の面では赤字確定だと思いますが）その差益を特定の